

# 国語 第2学年 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう

## 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「紙コップ花火の作り方／おもちゃの作り方をせつめいしよう（第2学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。これまでに読んだ説明する文章と、順序を表す言葉、まとめ、段落をどこまで学習してきたか。生活科でおもちゃを作ったことがあるか。

三、この学級の子どもの実態。書くのが苦手な子、手先の作業が苦手な子、順序立てて話すのが苦手な子などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、写真を撮れるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文言と文末は変えない。

教科書の本文は引用しない。抜いた文や並べ替えの文を作る所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

めあてとまとめは、第2学年までに習った漢字だけを使う。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。読むことと書くことの時間の割り振りも一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

### 第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう」教材名「紙コップ花火の作り方／おもちゃの作り方をせつめいしよう」

#### 2 単元の目標

共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する（(2)ア）。時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す（C(1)ア・ウ）。自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する（B(1)イ・ウ）。説明のしかたの工夫を進んで見付け、それをいかして書こうとする（学年の目標(3)）。

#### 3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ）

〔思考・判断・表現〕②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、事柄の順序や説明のしかたに気を付けて読み、学習の見通しをもって、おもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

#### 4 指導上の考察

##### (1) 単元について

本単元は、紙コップを使ったおもちゃの作り方を説明した文章を読み、説明のしかたの工夫を見付けて、それをいかして自分が選んだおもちゃの作り方を説明する文章を書く単元である。教材文は、前書きと、材料と道具、作り方、楽しみ方のまとまりからできている。作り方の段落は、初めの文で何をするかを短く示し、後の文で詳しいやり方やこつを書く形になっていて、写真が文と対応している。学習指導要領第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕(2)ア「事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること」、C(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」、B(1)ウ「語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること」を、一つの単元で続けて学べる。子どもは第1学年で、事柄の順序を考えながら説明する文章を読んできた。この単元で身に付けた、順序とまとまりを考えて書く力は、第3学年及び第4学年で段落相互の関係を考えて読んだり書いたりする学習につながる。生活科のおもちゃ作りと関連させることもできる(第3の1(7))。

##### (2) 児童について(学級の実態を書く)

##### (3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。一つ目に、読む時間に見付けた説明のしかたの工夫(まとまりの見出し、順序を表す言葉、段落の初めの文、写真と文の対応)を「せつめいのひみつ」として掲示し、書く時間に一つずつ使う。二つ目に、実際に作ってみる。教科書の説明のとおり紙コップ花火を作り、うまくいった所と迷った所を出し合うと、作るのに大事な語や文が子どもに見えてくる。三つ目に、読む相手をはっきりさせる。説明する文章は、第1学年の子どもや家の人など、そのおもちゃを知らない人が読んで作れるかを目安に書き、読み返して確かめる。書いた文章は、材料と道具・作り方・楽しみ方のまとまりがあり、作り方が順序を表す言葉でつながっている物を「おおむね満足できる」状況、それに加えて段落の初めの文で何をするかを示し、こつや気を付けることを書き足している物を「十分満足できる」状況の目安にする。

#### 5 指導と評価の計画(全14時間)

第1次 第1時：○おもちゃを作ったり遊んだりした経験を話し合う。○教科書の文章を読み、単元の課題「せつめいのしかたのひみつを見つけて、おもちゃの作り方をせつめいする文章を書こう」をつかむ。○誰に向けて書くかを決める。 評価：態①(観察・発言)

第2次 第2時：○文章全体を、前書き・材料と道具・作り方・楽しみ方のまとまりに分け、それぞれに何が書いてあるかを確かめる。

第2次 第3時：○作り方の段落を読み、順序を表す言葉と、段落ごとの作業の順を確かめる。○順序をばらばらにした文を並べ替え、並べ方の手がかりになった言葉を話し合う。 評価：知①(ワークシート)

第2次 第4時：○教科書の説明を読みながら紙コップ花火を作り、迷った所に付箋を貼る。

第2次 第5時(本時)：○作った経験を基に、作り方の段落から、作るのに欠かせない語や文を選び出し、その語や文が無いとどうなるかを話し合う。○段落の初めの文と後の文の役割を考える。 評価：思①(ワークシート・発言)

第2次 第6時：○写真と文を線で結び、写真が何を助けているかを話し合う。○見付けた工夫を「せつめいのひみつ」としてまとめ、書く時に使う工夫を選ぶ。 評価：知①(ノート)

第3次 第7時：○作り方を説明するおもちゃを決め、作りながら、材料と道具、作る手順をメモに書き出す。

第3次 第8時：○メモを、材料と道具・作り方・楽しみ方のまとまりに分け、作り方の手順を並べて組み立てを考える。

第3次 第9時：○前書きと、材料と道具のまとまりを書く。

第3次 第10時：○作り方のまとまりを、順序を表す言葉と段落の初めの文に気を付けて書く。 評価：思②(文章)

第3次 第11時：○作り方のまとまりの続きと、楽しみ方のまとまりを書く。○写真や絵を入れる場所を決める。 評価：思②(文章)

第3次 第12時：○書いた文章を読み返し、語と語や文と文との続き方と、抜けている手順がないかを確かめて直す。 評価：態①(文章の見直し)

第4次 第13時：○友達の文章だけを見て、そのとおりにおもちゃを作れるかを試し、分かりやすかった所と迷った所を伝え合う。

第4次 第14時：○伝えてもらった迷った所を書き足す。○学習を振り返る。 評価：態①（振り返り）

#### 6 本時の指導（5/14）

##### （1）本時の目標

作り方の段落から、おもちゃを作るのに欠かせない語や文を、実際に作った経験を基に考えて選び出し、そのわけを話せる。（C(1)ウ）

##### （2）学習過程

###### 【導入】

学習活動：1 前時に作った紙コップ花火を見せ合い、うまくいった所と迷った所を思い出す。

2 本時のめあてをつかむ。

○「作る時に、教科書のどの言葉が役に立ちましたか」

【めあて】作り方の大じなことばや文を見つけて、そのわけを話そう。

予想される児童の反応：・写真を見たら、どこをどうすればいいかはっきりした。

・順番どおりにしたら、うまくできた。

・ここで迷った。もう一回読んだらできた。

指導上の留意点：・前時に迷った所に貼った付箋は、教科書に貼ったままにしておく。

・作った紙コップ花火を机の上に置かせ、文と見比べられるようにする。

###### 【展開】

学習活動：3 作り方の段落を一人で読み、作るのに欠かせなかった語や文に線を引く。

○「この言葉がなかったら、作る時にこまるのはどれですか」

4 線を引いた語や文と、そのわけをペアで話す。

5 全体で話し合う。先生が、大事な語や文を抜いた作り方の文を見せ、元の文と比べる。

○「どこがちがいますか。ぬけていると、どうなりますか」

6 段落の初めの文と、その後の文を比べる。

○「段落の初めの文には、どんなことが書いてありますか。後の文には何が書いてありますか」

予想される児童の反応：・順番を表す言葉がないと、どれから作るか迷う。

・どこを、どのくらい、が書いていないと、ちがう形になる。

・こつが書いてあったので、失敗しなかった。

・写真と同じことが文にも書いてある。

・初めの文は、何をするかが短く書いてある。

・後の文は、詳しいやり方や、うまくいくこつが書いてある。

指導上の留意点：・線を引けない子には、作った紙コップ花火を手にしたせ、作った順に「この時、どの文を見たかな」と聞く。

・「全部大事」と言う子には、「一つだけ消すとしたら、どれなら作れるか」と聞いて比べさせる。

・大事な語や文を抜いた文は、先生が教科書の本文を基に作り、拡大して掲示する。

・どの語や文が出るかは、使う教科書の本文で先生が確かめておく。

・早く終わった子には、自分が書くおもちゃの説明で使いたい語や文を選ばせる。

評価：思① 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（ワークシート・発言）

###### 【まとめ】

学習活動：7 学習をまとめる。

【まとめ】作り方のせつめいでは、じゅんじょをあらわすことばと、なにをどのようにするかをくわしく書いた文が大じ。だんらくのはじめの文で、することを先に書いている。

8 振り返りを書く。

予想される児童の反応：・自分のおもちゃの説明でも、初めの文にすることを書きたい。

指導上の留意点：・まとめは子どもから出た言葉を使い、「せつめいのひみつ」の掲示に書き足す。

・振り返りは「大事だと思った語や文と、そのわけ」と「自分が書く時に使いたいこと」の二つで書かせる。

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に、作り方の段落を拡大して貼り、子どもが選んだ大事な語や文に赤で線を引く。その下に、その語や文を選んだわけ（子どもの言葉）。中ほどに、大事な語や文を抜いた文と元の文を上下に並べ、違う所を囲む。その左に、段落の初めの文と後の文の役割（することを短く・詳しいやり方とこつ）。左端に、まとめと「せつめいのひみつ」の揭示、振り返りの二つの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

